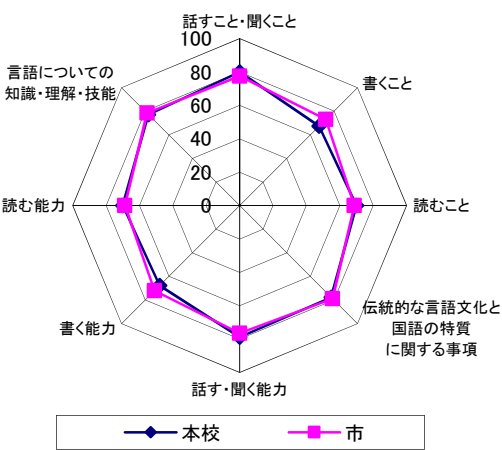


宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	80.0	77.6	76.3
	書くこと	67.5	73.0	56.1
	読むこと	70.0	68.8	63.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.8	78.8	71.6
観点別	話す・聞く能力	78.7	76.5	75.4
	書く能力	67.8	72.0	58.1
	読む能力	70.0	68.8	63.9
	言語についての知識・理解・技能	77.1	78.4	70.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

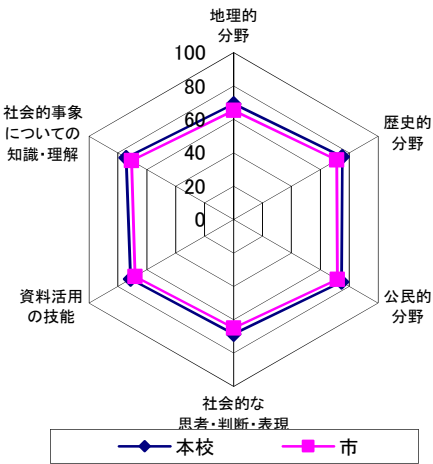
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、市の平均を2.4ポイント上回っている。 ○すべての問題について、市の平均正答率を上回っており、おおむね満足できる状況である。	・日頃からキーワードをメモしながら聞くことができている。 ・話し合いの中での司会者の工夫や、内容を理解してもらったための工夫についても、話し合い活動を取り入れながら指導していきたい。
書くこと	●「書くこと」の平均正答率は、市の平均より5.5ポイント下回っている。作文の問題のすべての項目に置いて、市の平均を下回っており、特に、「自分のとった立場の理由を書く」が56.1と最も低くなっている。	・自分の立場を明確にし、それについての根拠を述べ、最後に内容をまとめる、といった作文の基本を再度確認し、作文練習をさせる。また、字数や構成を意識して書くことも指導する。
読むこと	・「読むこと」の平均正答率は、市の平均を1.2ポイント上回っている。 ●説明文の文章の展開に即して内容をとらえる問題の正答率が、市の平均よりも、3.9ポイント下回っている。	・文学作品に比べて、説明文の読み取りが苦手な生徒が多いので、接続詞に注目して文章の構成や展開をとらえる練習や、文章の展開に即して内容をとらえる練習に取り組ませたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率は、市の平均を1.0ポイント下回っている。 ●用言の活用についての問題の正答率が、市の平均よりも、2.7ポイント下回っている。	・漢字の読み書きに関しては、問題によって正答率に差があったので、漢字練習や漢字テストなど、授業での指導を充実させるとともに、日頃から積極的に漢字を使う態度を育てたい。 ・文法については、基本的な事項を繰り返し授業でも取り扱い、理解を深めさせたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	69.3	65.4	52.7
	歴史的分野	75.2	71.3	64.1
	公民的分野	74.8	71.8	68.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.5	64.9	53.5
	資料活用	71.2	68.0	57.3
	社会的な事象についての知識・理解	74.3	70.6	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

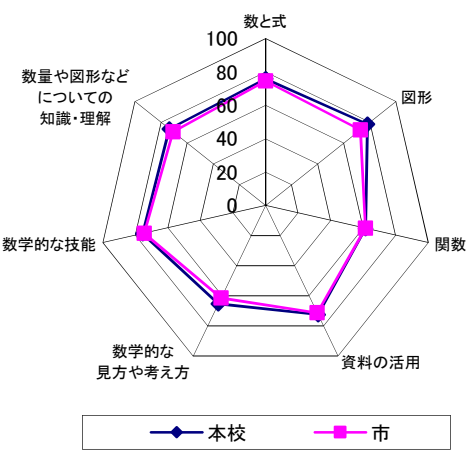
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○市の平均正答率を3.9ポイント上回った。 ○EU(ヨーロッパ連合)の統合の進展と人々の生活について、複数の資料をもとに考察し、説明する問題では、市の平均正答率を9.3ポイントと大きく上回っている。 ●地理的分野の社会的な思考・判断・表現の観点別のポイントが他の歴史、公民的分野に比べて低い。	・基礎、基本の定着を図り、重要語句を記述できるようにさせる。 ・資料を読み取って考察し、表現する活動を多く取り入れるよう工夫していきたい。
歴史的分野	○市の平均正答率を3.9ポイント上回った。 ○西郷隆盛を中心として起こった西南戦争の理解については、市の平均正答率を10ポイント以上大きく上回っている。 ●古代までの日本の学習が、近世・近代の日本の学習に比べ、正答率が低い。	・時代的な流れとともに、基本的用語の確認をさせていく。思考を深めさせるための話し合い活動や、記述作業を学習活動に取り入れていく。
公民的分野	○市の平均正答率を3.0ポイント上回った。 ○知識、理解についての正答率がおおむね高く、フランス人権宣言の主な内容に関する問題は市の平均正答率を3.0ポイント上回った。 ●国会と内閣の関係など、日本の政治のしくみに関する理解度が低い。	・現在の社会情勢と照らし合わせながら、国の政治の仕組みについて新聞などを活用しながら取り組ませていく。また、人権については、日常生活に照らし合わせながら考えさせていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.0	74.7	72.4
	図形	78.1	72.7	62.3
	関数	61.5	61.3	52.1
	資料の活用	72.4	71.3	55.6
観点別	数学的な見方や考え方	65.2	61.4	45.2
	数学的な技能	75.6	74.6	69.7
	数量や図形などについての知識・理解	73.7	70.8	61.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

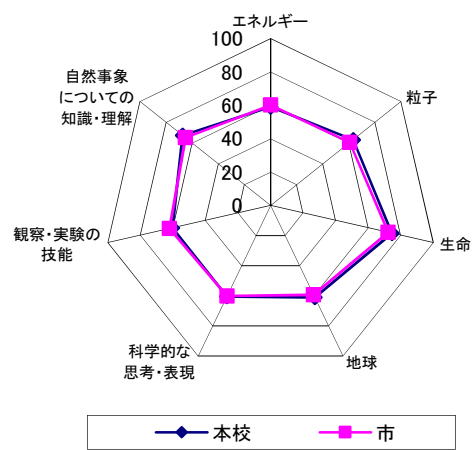
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・「数と式」の領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも1.3ポイント高い。 ○自然数の理解や、分母を有理化し根号を含む式の計算や、解の公式の利用の正答率は市の平均正答率よりも6ポイント以上高い。 ●乗法公式を使っの因数分解の正答率は市の平均正答率よりも6. 8ポイント低い。また、その他の計算の問題もほかの観点の問題と比べると、正答率が低い。	・語句や計算の意味などについては、授業中に理解し、繰り返し演算を行うことで定着を図った。また、授業の前に3年間の計算練習を中心に5分間の問題演習を実施するようになった。徐々に計算力が身に付き、正答率も向上してきた。今後も継続して、基本問題を繰り返し演習することを行うとともに、公式などを活用した複雑な計算についても取り組ませていきたい。
図形	○「図形」の領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも5.4ポイント高い。 ○「図形」の領域の問題の正答率は、市の平均正答率よりもいずれも高く、特に内角の和からの多角形の判断や平行四辺形になるための条件の正答率はおよそ10ポイント市の平均正答率よりも高い。	・相似の図形の証明問題を通して、証明の見通しや筋道を立てた表現の仕方についての能力を高める指導を丁寧に行った。その結果、相似だけでなく合同の証明についても筋道を立てた表現ができるようになるとともに、図形に対する見方が多様化し、意欲が高まってきた。今後はより難解な問題に取り組ませ、考えを深めせると同時に、筋道を立てた表現ができる力を身に付けさせたい。
関数	・「関数」の領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも0.2ポイント高い。 ○グラフ上の点の座標を求める問題の正答率は、市の平均正答率よりも7. 9ポイント高い。 ●グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求める問題では、正答率が28.2ポイントであった。	・xの2乗に比例する関数を学習する際に、比例、反比例、1次関数についても比較しながら特徴を把握させるなど、関数の理解を深めるように丁寧に指導を行った。その結果、グラフの理解が深まり、ほとんどの問題で市の平均正答率と同程度であった。グラフと図形の融合問題では、それぞれのグラフの特徴や図形の性質などを整理し、活用する力を身に付けさせたい。
資料の活用	・「資料の活用」の領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも1.1ポイント高い。 ○不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ、判断の理由を説明する問題では、全国の平均正答率よりも33.2ポイント高く、市の平均正答率よりも5.9ポイント高い。 ●度数分布表から、階級の相対度数を求める問題の正答率は、市の平均正答率よりも6ポイント低い。	・確率に関する知識や技能については、同様の場合についての問題演習を繰り返し行ったり、身近な題材について考えを深めさせることにより、生徒が意欲的に取り組むようになり、定着率が高まった。相対度数に関しては正答率が低いことから、再度基本的な事項の確認をし、定着を図りたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	59.2	60.2	57.6
	粒子	63.3	60.6	55.1
	生命	74.5	72.3	63.6
	地球	61.1	59.3	50.4
観点別	科学的な思考・表現	60.4	60.2	57.3
	観察・実験の技能	60.4	62.1	57.5
	自然事象についての知識・理解	67.4	65.2	57.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

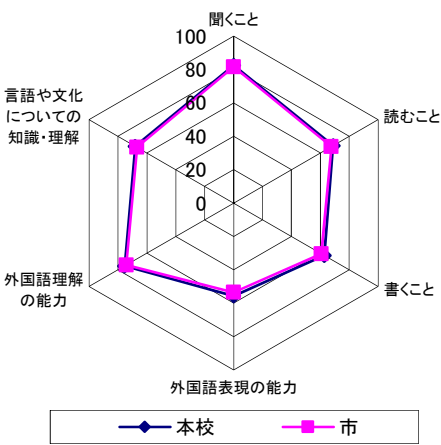
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・平均正答率は、市の平均を1.0ポイント下回っている。 ○「誘導電流の流れる向きがわかる」の平均正答率は、市の平均を4.2ポイント上回っている。 ●「水圧はあらゆる向きにはたらくことを、実験の結果から考察し説明できる」の平均正答率は市の平均を4.2ポイント下回っている。水圧の理解に課題が見られる。	・「電流のはたらき」について、今後も継続して、実験を行いながら理解させ、定着を図る。 ・「水圧」について、実験を通して視覚的・体験的に理解を深める。
粒子	○平均正答率は、市の平均を2.7ポイント上回っている。 ○「発熱反応について理解している」の平均正答率は、市の平均を10.2ポイント上回っている。 ●「中和における水溶液の性質の変化」の平均正答率は、市の平均を1.7ポイント下回っている。中和の際の水溶液の性質の変化についての理解に課題が見られる。	・中和の実験では、イオンの数の変化や、中和によってできた塩についての理解はできているが、その時に水溶液の性質が変化することが把握しきれていない。実験時に、BTB溶液などの試薬を用いて、色の変化から性質が変わっていることを理解させる。
生命	○平均正答率は、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ○「優性形質」についての問いの平均正答率は、市の平均を11.1ポイント上回っている。 ●「対照実験について理解している」の平均正答率は、市の平均を14.4ポイント下回っている。対照実験についての理解に課題が見られる。	・遺伝についての基礎はよく理解できているが、その応用に課題が見られるため、演習問題を通して理解を深めさせる。 ・様々な実験を行う際に、比較対象の存在の意味をよく考えさせ、「対照実験」についての理解を促す。
地球	・平均正答率は、市の平均を1.8ポイント上回っている。 ○「示相化石について理解している」の平均正答率は、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ●「柱状図から過去の火山の噴火を読み取ることができる」の平均正答率は、市の平均を2.4ポイント下回っている。柱状図からの読み取りの力に課題が見られる。	・柱状図を扱う問題の演習を通して、そこから読み取るべきことに着目させ、理解の定着を図る。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	82.5	81.7	75.3
	読むこと	68.9	67.7	62.9
	書くこと	62.8	60.7	52.8
観点別	外国語表現の能力	55.7	53.5	44.8
	外国語理解の能力	75.4	74.2	67.8
	言語や文化についての知識・理解	68.2	66.8	63.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・「聞くこと」の校内正答率は、市を0. 8ポイント上回っている。 ○リスニング問題10問中8問は市の正答率と同じか上回っている。 ●リスニング問題10問中2問、市の正答率を下回っている。	・まとまりのあるリスニング問題を数多く聞かせ、内容の理解の手助け、つながりのある発音の聞き取り、代名詞の指す内容などについて解説し、トレーニングを増やしていく。 ・ALTによる授業や、毎回の授業でのウォームアップや口頭導入、教室英語をさらに多く取り入れ、英語を聞く機会を増やしていく。
読むこと	・「読むこと」の校内正答率は、市を1. 2ポイント上回っている。 ○「長文の読み取り」のメールの内容把握の問題は市の正答率を4. 5ポイント上回っている。 ●語形・語法理解の問題では市の正答率を5ポイント下回った問題が1問あった。また、「長文の読み取り」で、代名詞が何を指すかという問題では市の正答率を1. 6ポイント下回っている。	・基本文、単語、連語を繰り返し覚えさせ、長文を読み取る力の基礎を身に付けていく。 ・長文読解では、限られた時間の中で話を整理し、大意をつかむ練習をする必要がある。特に代名詞が何を指すのか考えさせながら読んでいく指導をする。さらにいろいろな長文読解の教材を取り入れ、Q&AやT-Fテスト等により内容理解を深める練習を増やす。
書くこと	○「書くこと」の校内正答率は、市を2. 1ポイント上回っている。 ○「3文以上の英作文」では、市の正答率を3. 8～5. 2ポイント上回っている。 ・対話の流れに合った英文を書く問題では、0. 1～0. 7ポイント下回っている。	・3年生で学習した内容は比較的できているが、1, 2年生で学習したところを忘れてしまったり、他の文法事項と混同してしまったりしているようなので、既習事項も時々振り返って学習させていく。 ・さらに書くことに抵抗なく取り組めるよう、3年間を通して英作文指導の充実を図る。 ・基本文、単語、連語を繰り返し覚えさせ、英文を書く力の基礎を身に付けていく。